



令和6年度 スタート!

ご入学、ご進級、おめでとうございます。25名の新1年生を迎え、全校児童138名、8学級で、和田小学校の令和6年度がスタートしました。安土山の桜が咲き誇り、和田の街が春の香りで満ち溢れる中での入学式となりましたが、新2年生によるあたたかな「歓迎の言葉」からは、新1年生の入学をお祝いする気持ちが伝わってきました。



新入生入場

さて、いつの時代にあっても学校は、未来を切り拓く夢にあふれ、自立に向かう子どもたちにとって、確かな学びや豊かな育ちのある場でなくてはなりません。和田小学校においても、自らの夢や目標を実現させようと、目を輝かせながら学ぶ子どもたちの「よさ」を生かし、可能性を引き出し、未来をたくましく生きる力を育む大切な成長の場にしていきたいと考えています。また、子どもたちが、人間としての生き方について考えを深め、自分自身を磨き、互いに認め合い、支え合って生きる、豊かな人間関係を築く場にしていきたいとも考えています。

そこで、私たち教職員は、子どもたちの小学校6年間の成長を見通しながら、



新入生点呼

子どもの目線に立った教育を推進し、子どもたち一人一人が輝く、「感動」のある学校づくりを目指したいと思います。

なお、今年度の学校教育目標は、『自ら学び、考え、行動できる子の育成』としました。先の見通せない、変化の激しい時代にあって大切なことは、自律する力（自分で考え、判断・決定し、行動できる力）をつけていくことです。日々の教育活動の中で、子どもたちとしっかりと向き合い、一人一人の大切な夢（目標）を共有しながら、未来を切り拓く確かな力の向上に努めて参ります。

また、多くの卒業生に見守られてきた歴史と伝統のある本校が、充実した教育活動を展開できるのは、ひとえに保護者や地域の皆様のご支援のおかげです。今年度も引き続き「チーム和田小」の一員として、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



歓迎の言葉

「ほめて育てる」は不適切？

先日、交通安全教室後の集団登校では、子どもたちは学習したことを守り、しっかりと道路を横断することができていました。そのことを伝え、班長のみなさんに対しては、「リーダーシップが大変素晴らしい」と話しました。「ほめる時は、人前の方がより効果的」と以前から心がけてきたからです。



交通安全教室

しかし、「期待しているよ」とZ世代の後輩をほめたら「ハラスメントだ！」と訴えられたのが、ドラマ『不適切にもほどがある』の初回のシーンです。自分だけほめられて気まずかった、叱られたかったというのが、その後輩の言い分です。Z世代の60%以上が、上司に「人前でほめられたくない」と考えているという調査結果もあり、『先生、どうか皆の前でほめないで下さい』（金間大介著）は、自己肯定感の低さがその背後にあるのではないかと指摘しています。

実は、学校や学級では「自己肯定感を育む」ために、意識的に子どもたちを「ほめる」ということを続けてきましたが、「ほめるだけでは、自己肯定感は育たない」と述べる心理学者もいます。それは、「自己肯定感とは、厳しい状況を自分の力で乗り越えたときに高まるもので、特に頑張っていないのにほめられても高まらない上に、自己評価を他者に依存させてしまうことにもつながる」からだとい

うのです。

「ほめ言葉」は子どものやる気と自己肯定感を上げると信じてきました。実際その通りで、間違いのないと思いますが、これらの指摘からは、今一度子どもとの向き合い方を考え直す必要性も感じます。子どもの自己肯定感を高める方法として、「これだ！」という正解はありませんが、まずは、子どもの話をよく聴いて、子ども自身に「選択させる、考えさせる」。そして、結果だけをほめるのではなく、その過程もほめるようにすることを、和田小学校では心がけていきたいと思っています。また併せて、地域の自然や文化に触れる機会を意図的に作り出すことで、積極性を育て、視野を広げることもつなげたいと思います。それらの活動を継続的に行っていくことが、子どもたち一人一人の自己肯定感を高めることにつながると期待しています。



交通安全教室

4月の主な行事予定

- 16日（火）1・2・3年 歯科検診
- 18日（火）6年
全国学力・学習状況調査
- 19日（金）1年 心電図検査
5年 「米づくり」の学習
- 23日（火）尿検査
- 24日（水）授業参観・学級懇談会
- 25日（木）委員会
- 26日（金）4・5・6年 歯科検診
- 29日（月）昭和の日